

## 1. 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書 (案)」改訂 4 版作成手順

「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書 (案)」改訂 4 版は次の手順で作成した。

- 1) 医療関連サーベイランス実践に関する国内の文献をレビューした\*<sup>1</sup>。
- 2) 無作為抽出した全国の病院を対象にサーベイランス実施状況を調査した\*<sup>2</sup>。
- 3) 調査結果をもとに中小規模施設に適した医療関連サーベイランスとして 6 種類を特定し、簡便な手順書案を策定した。
- 4) 埼玉県感染管理者のネットワークの意見を踏まえ、研究グループ\*<sup>3</sup>で検討を繰り返し改訂 4 版を作成した\*<sup>4</sup>。
- 5) 改訂 4 版について感染管理に従事する医療従事者を対象に広くアンケートを実施して意見収集を行った。

※1 西岡みどり,森那美子,坂木晴世,藤田烈,沼直美,平松玉江,森兼啓太:日本における医療関連感染サーベイランスと病院規模に関する文献検討.国立看護大学校研究紀要 8(1):10-19,2009

※2 西岡みどり,森那美子,坂木晴世,藤田烈,沼直美,平松玉江,森兼啓太:施設規模・資源別サーベイランス実施状況調査報告書 2008 年 12 月 26 日.  
[http://www.dcc.go.jp/nosocomial\\_infection/pdf/surveillance.pdf](http://www.dcc.go.jp/nosocomial_infection/pdf/surveillance.pdf)

※3 研究グループ:西岡みどり(国立看護大学校)、森那美子(国立看護大学校)、坂木晴世(東京大学大学院)、藤田烈(東京大学大学院)、沼直美(国立看護大学校)、平松玉江(国立看護大学校)、森兼啓太(山形大学医学部附属病院)

※4 西岡みどり,森那美子,坂木晴世,藤田烈,沼直美,平松玉江,森兼啓太:中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書(案) 2009 年 7 月 10 日改訂 4 版.  
<http://www.ncn.ac.jp/img/survey-all.pdf>

## 2. 「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書 (案)」改訂 4 版への意見 収集結果

平成 21 年 7 月～9 月に実施された感染管理に従事する医療従事者を対象とした複数の研修会で『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書 (案) 改訂 4 版』に関するアンケートを配布し、404 名の回答を得た。

回答者の病院規模の分布と ICT 組織状況を図 1、2 に示す。回答者の職種は図 3、4 のとおり、看護師が 92%と最も多く、ついで薬剤師 5%、臨床検査技師 2%であった。また、回答者が有する感染管理関係の資格を図 5、6 に示す。

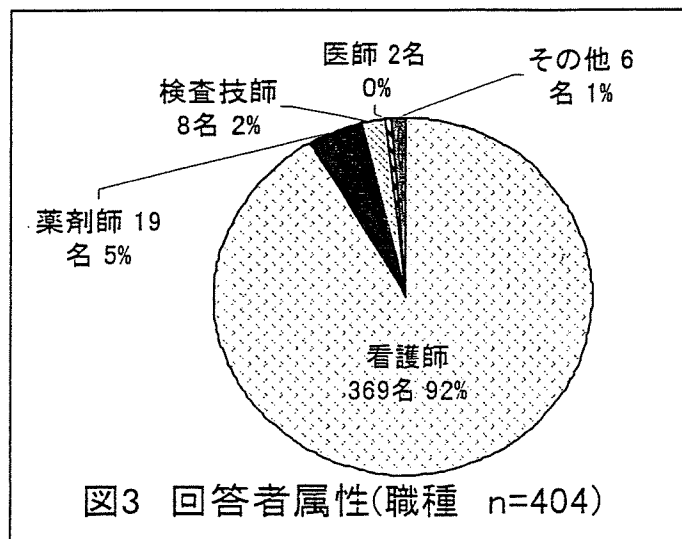
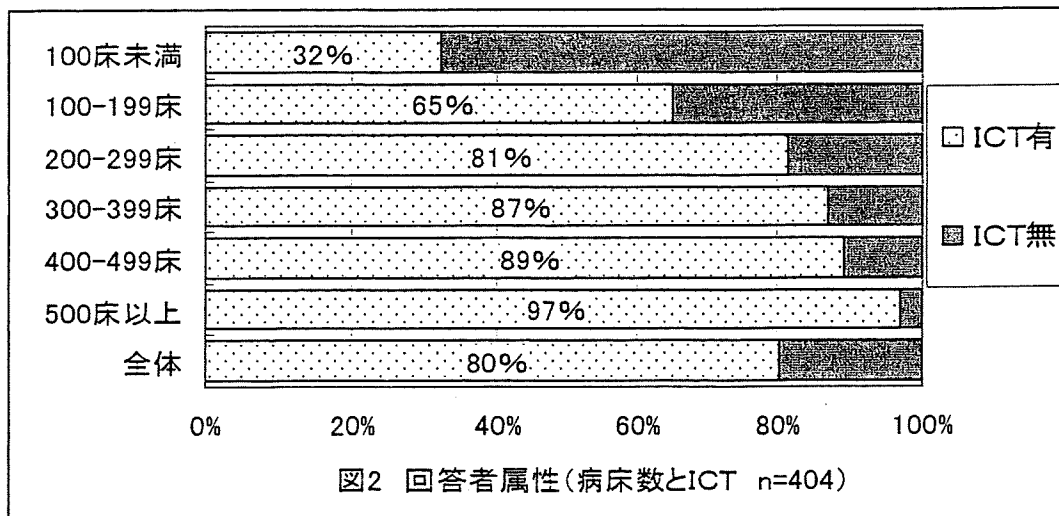
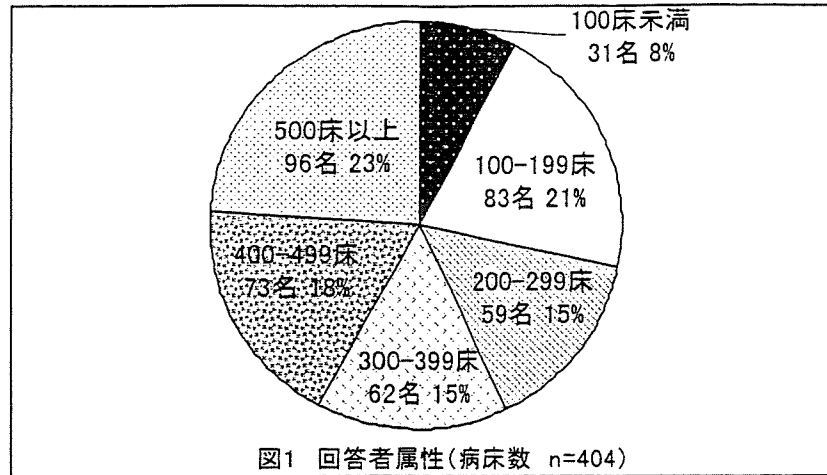
各種サーベイランス手順書案が使いそうかどうかについての回答割合を図 7-16 に示す。100 床未満では少ない傾向にあるものの約 6-7 割が「このまま使いそう」と回答した。

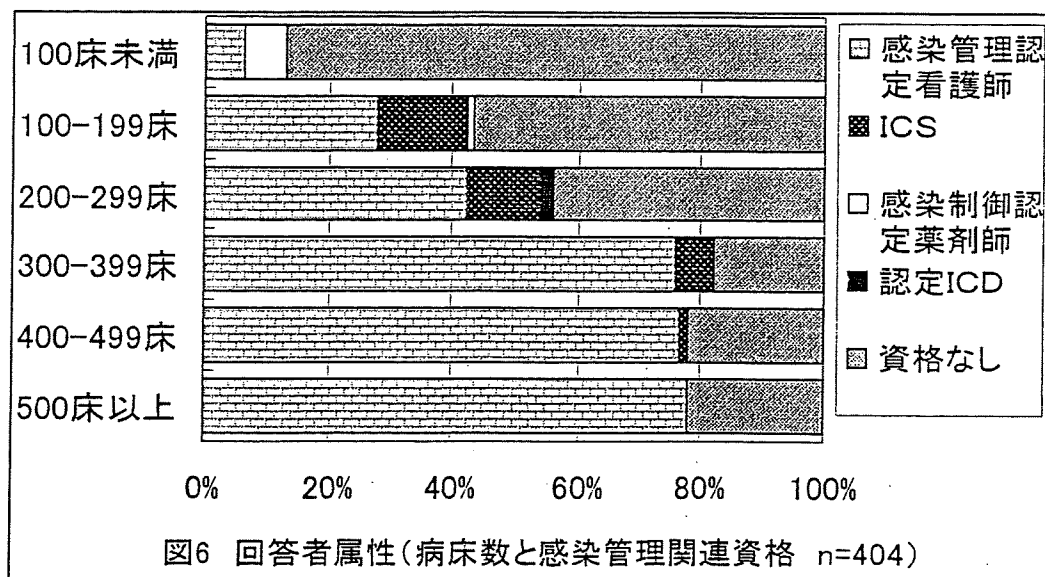
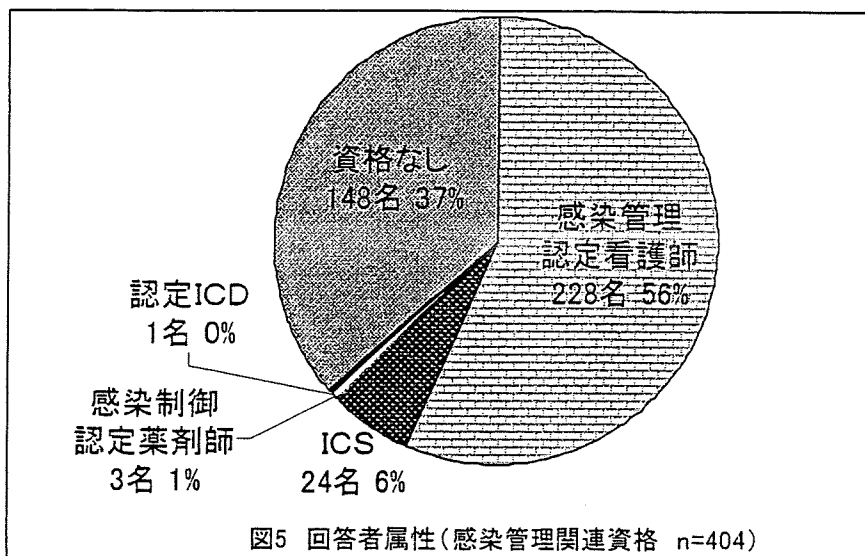
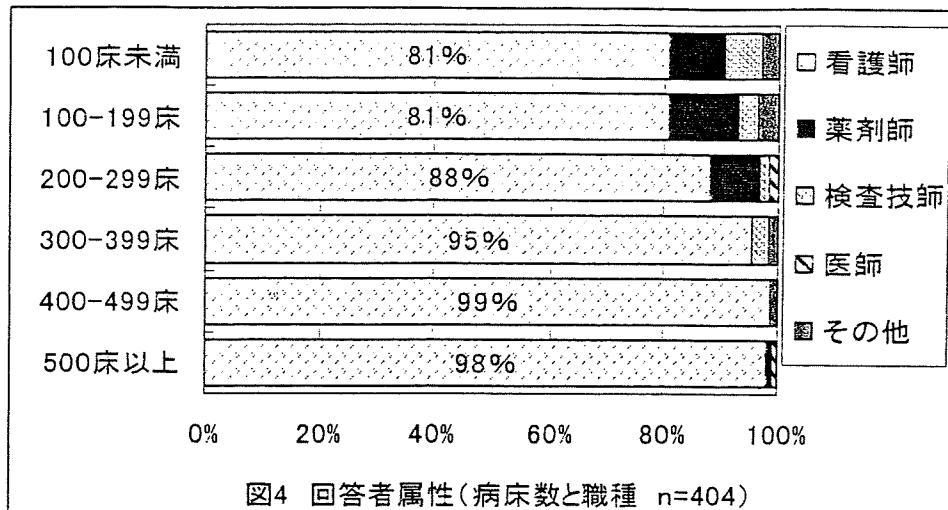
各種サーベイランス手順書案を施設で「実際につかってみたい」と回答した割合 (%) を図 17-20 に示す。図 17 に示すように、「実際につかってみたい」と回答した割合は、病床規模による違いはほとんどなく、高い順に「手指衛生」72%、「インフルエンザ&インフルエンザ様症状」58%、「MRSA」54%、「ノロウイルス感染&消化器症候群」44%、「カテーテル関連尿路感染」35%、「MDRP」24%であった。

自由回答には「精神科病院なので実施は難しい」「きちんと遂行するには 200 床あたり 1 人の専従者が必要と思う」「使ってみたいがサーベイランスの知識があるスタッフがいないので難しい」など臨床での実施の困難さに関する意見もあった。しかし、「早速使いたい」「『手術部位感染』の手順書案も欲しい」「ハードルが低くなりやってみようという気持ちになる」「サーベイランスが行いやすくなり良いことだと思う」「今の時代やるべき」「現在行っているがこういう手順書にそってやることでもっと効果的になると思う」「データ取得の大切さと手順が比較的容易だとわかった」「報告書の雛形が示されているのが大変ありがたい」など、実践の助けになることを示す意見が多かった。

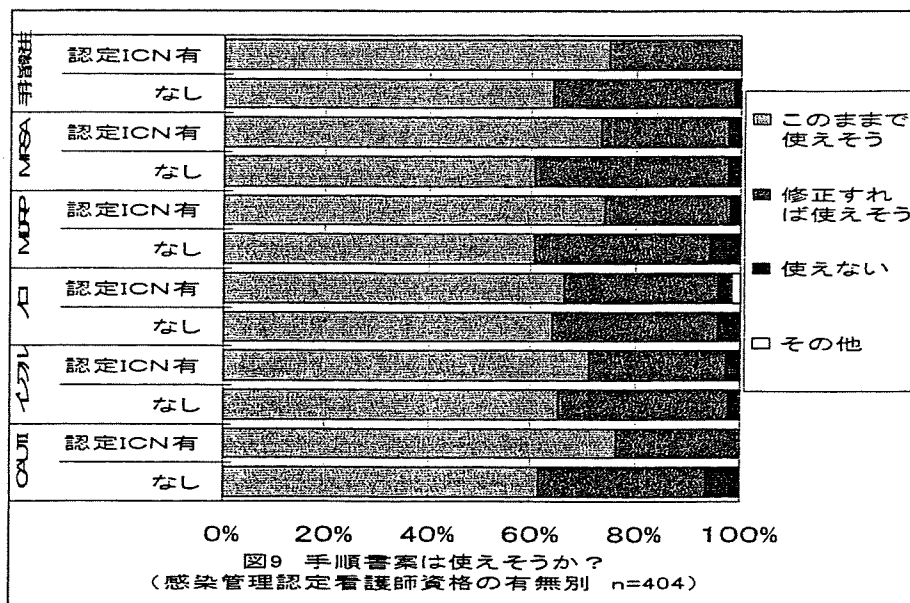
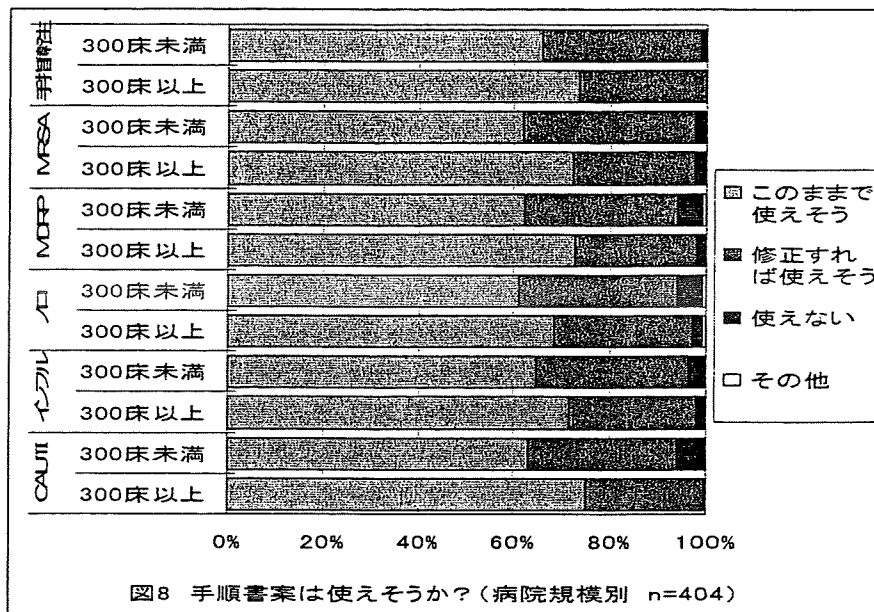
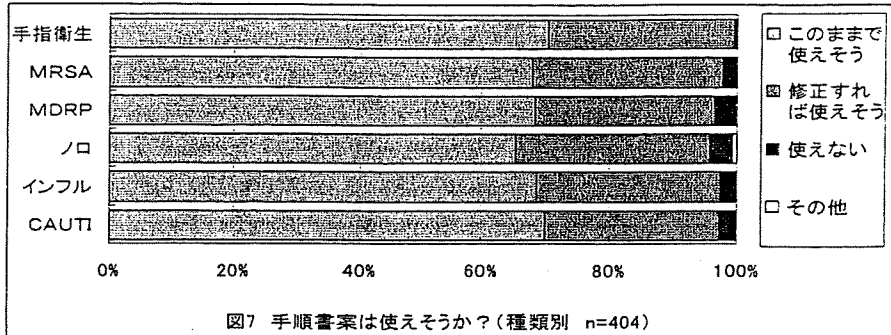
以上より、『中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書 (案) 改訂 4 版』は、概ね「使いそう」であり、6 種類の中では「手指衛生サーベイランス手順書案」のニーズが最も高いと考えられた。

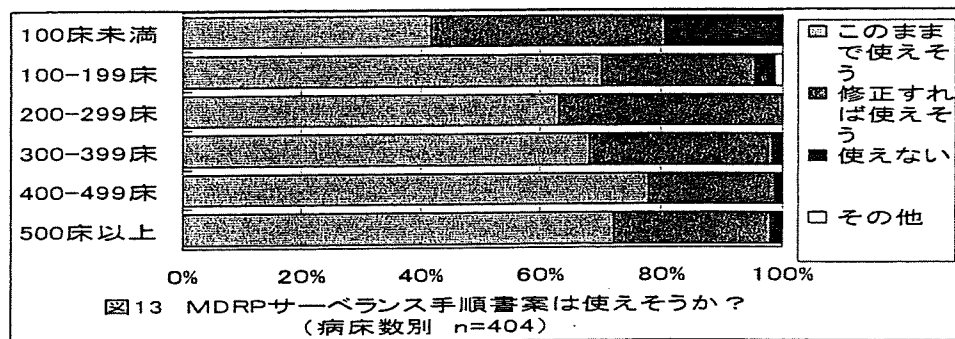
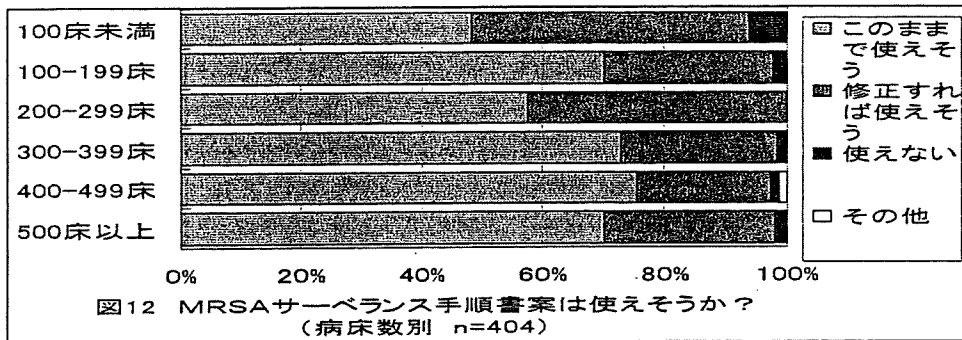
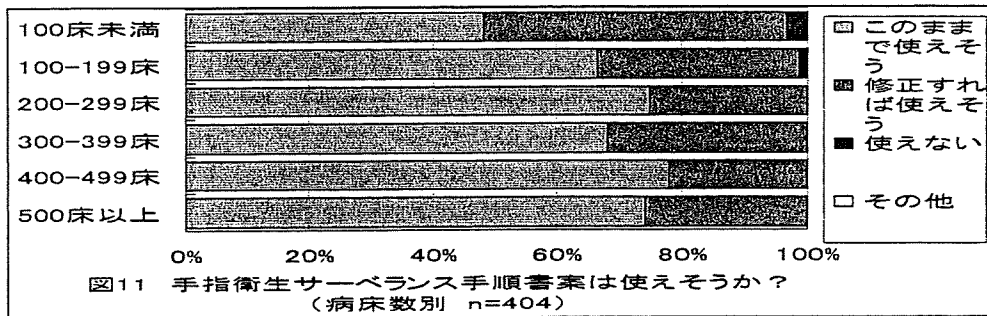
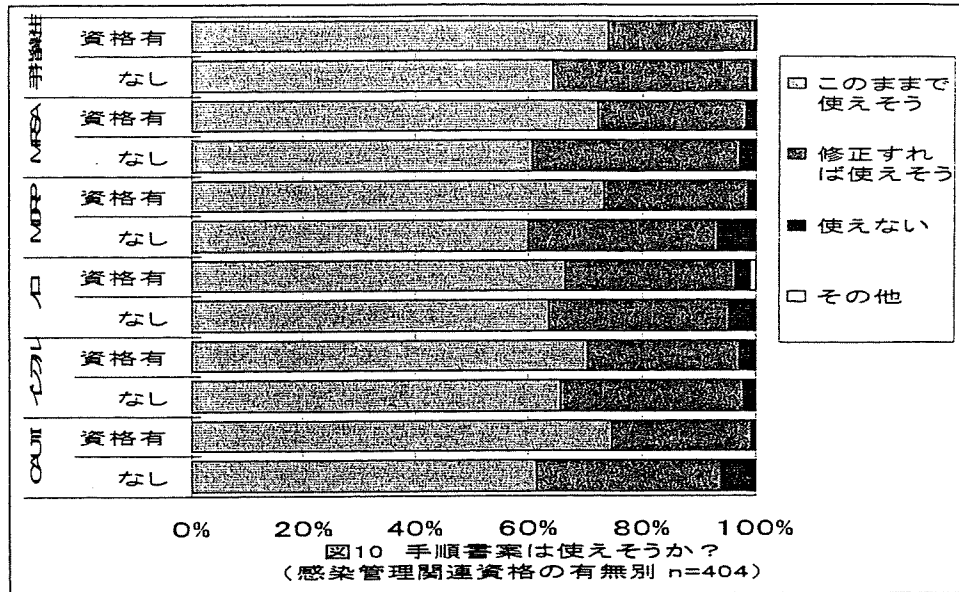
【アンケート回答者の属性】

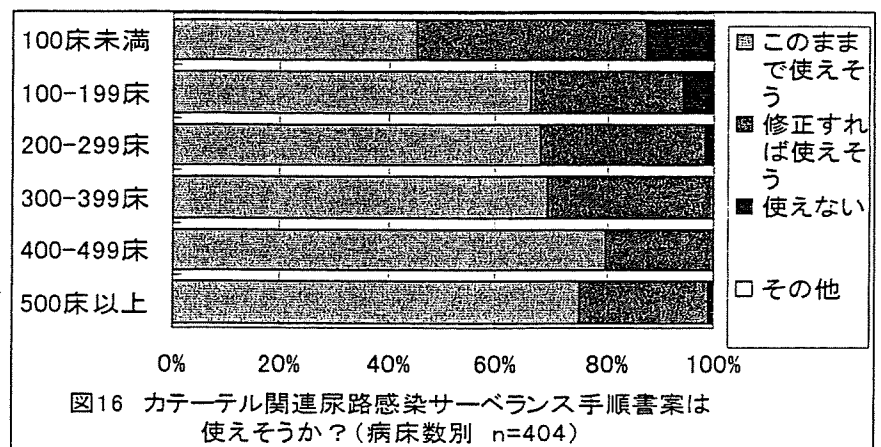
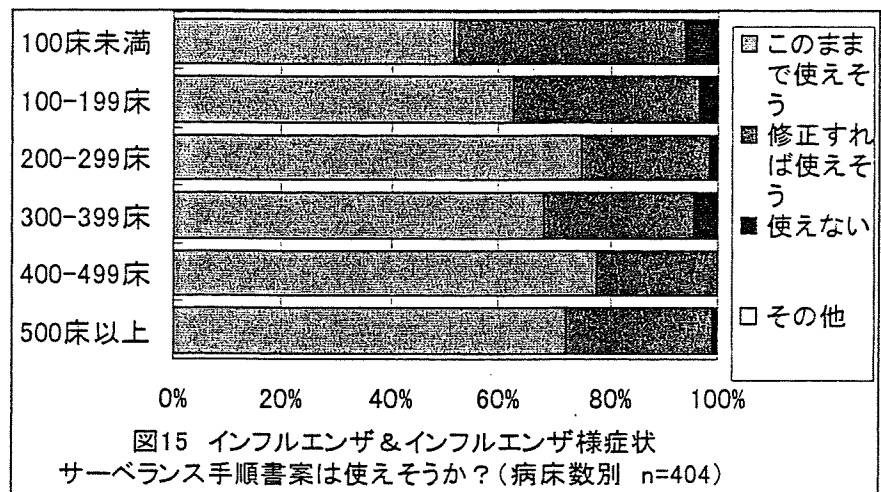
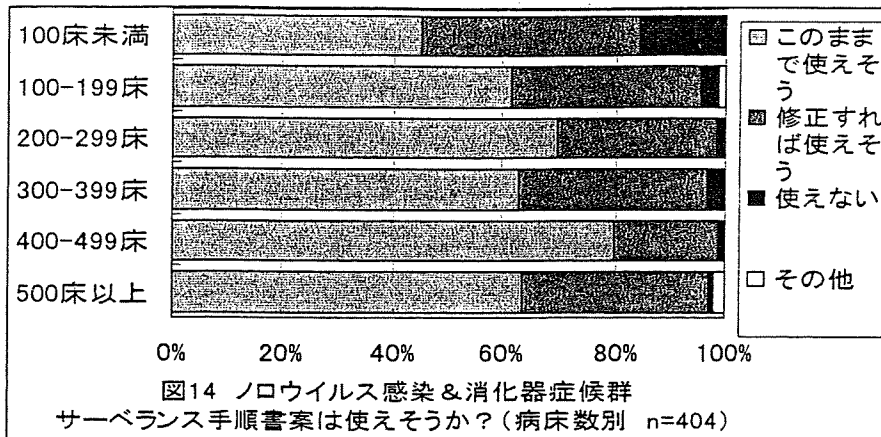




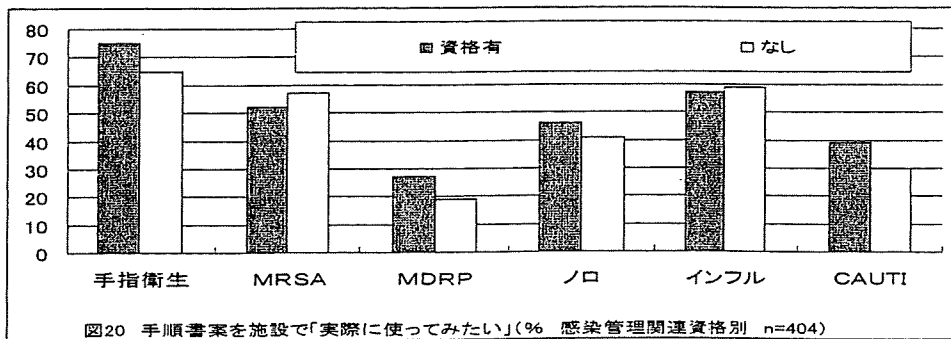
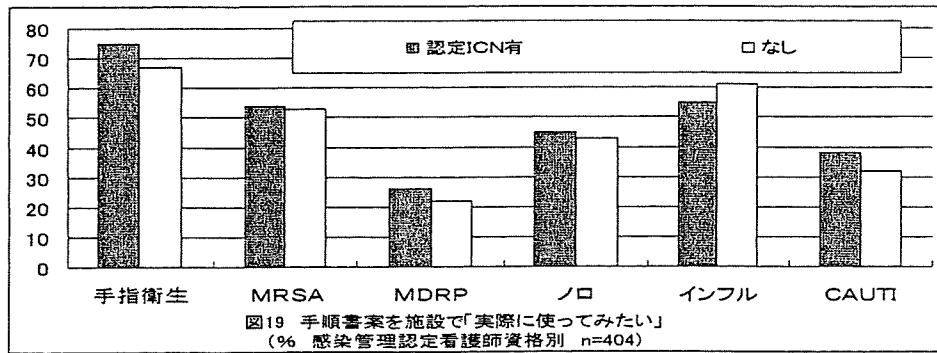
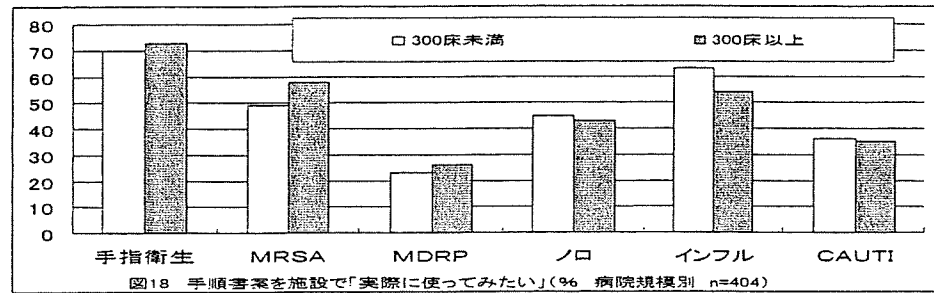
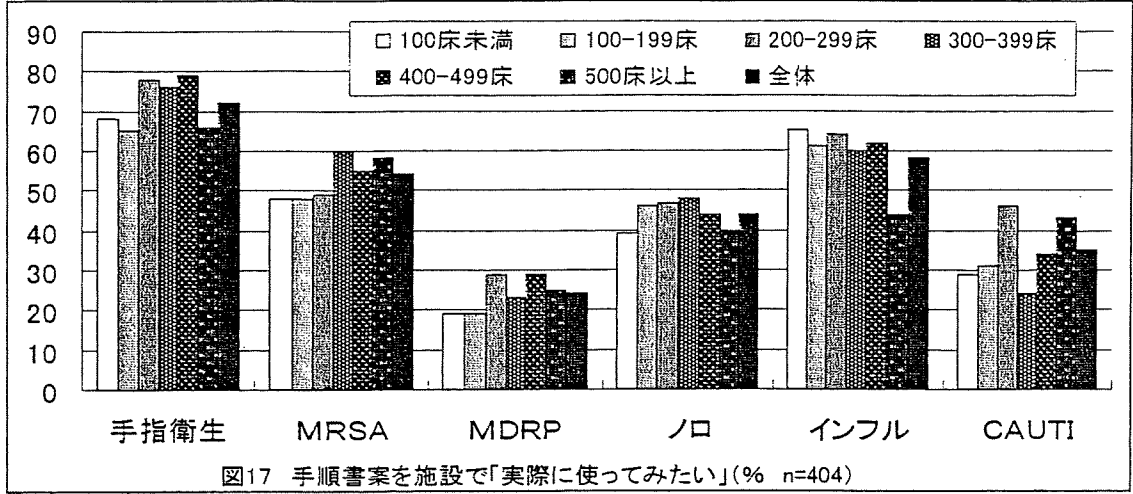
【各種手順書案は使えそうか？】







【各種手順書案を施設で「実際に使ってみよう」か？】







# 中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）

2009年7月10日 改訂4版

病院施設の規模別の感染対策の実態調査（分担研究者 西岡みどり）

【平成21年度厚生労働科学研究費補助金

新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業（H21-新興—一般—001）

医療機関における感染症伝播に関する研究（主任研究者 切替照雄）】

## はじめに

本手順書案「中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書（案）」の趣旨は、決してすべての中小規模の医療施設にサーベイランスの実施を強いるものではありません。サーベイランスを開始したいと考えている医療施設に役立てていただけるよう試作しました。なお、本手順書案では無床診療所でのサーベイランス実施は想定していません。

本手順書案での「サーベイランス」とは、医療関連感染（院内感染）の発生を防止するために、関連するデータを適時に職員へフィードバックして日常の対策に役立てる活動のことです。データは行政機関への報告のためではなく、院内の職員が日常の感染管理活動に活用するために収集します。

「サーベイランス」は日常の感染対策評価やアウトブレイク（多発）の早期察知などを目的に実施します。したがって、継続的な実践は効果的ではありますが、多忙な病院運営の中では、目的に合わせて実施期間を予め設定することも効率的です。

中小規模の医療施設では、昨今の厳しい医療事情の中、多大な労力をかけて感染対策が行われています。全国調査の結果からは、中小規模の医療施設での感染対策に大規模施設と同等の人員費がかけられていること、サーベイランス実施率が低いことなどがわかりました。（詳細は「施設規模・資源別サーベイランス実施状況調査報告書」をご覧ください。[http://www.dcc.go.jp/nosocomial\\_infection/pdf/surveillance.pdf](http://www.dcc.go.jp/nosocomial_infection/pdf/surveillance.pdf)）

本手順書案作成にあたっては、前述の調査結果に基づいて中小規模の医療施設での実践可能性を勘案して6種類を選定しました。お試しくださる医療施設では目的に合わせて6種類の中から自由にご選択ください。また、本手順書案は施設規模に関わらず、「サーベイランスを実施したいが、急性期の医療施設で実施されているような、手術部位感染や中心静脈カテーテル関連血流感染などの種類は自施設に適さない」とお考えの医療施設にもご試用いただけます。

本手順書案は完成版ではありません。ご試用いただき、より使いやすい手順書の完成に向けて忌憚のないご意見、ご指導をいただけましたら幸いです。

2009年7月10日

作成 西岡みどり（国立看護大学校）、森那美子（国立看護大学校）、坂木晴世（東京大学大学院）  
藤田烈（東京大学大学院）、沼直美（国立看護大学校）、平松玉江（国立看護大学校）  
編集 西岡みどり（国立看護大学校）、森兼啓太（東北大学大学院）  
問い合わせ先 survey@ncn.ac.jp

\* 本手順書案は、平成21年度厚生労働科学研究費補助金 新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業（H21-新興一般-001）「医療機関における感染症伝播に関する研究（主任研究者 切替照雄）」の分担研究「病院施設の規模別の感染対策の実態調査（分担研究者 西岡みどり）」により作成しました。

#### 【本手順書案の特徴】

- 1) サーベイランスの実施をすべての中小規模の医療施設に強いるものではなく、開始したいと考える施設にご試用いただくためのものです。
- 2) 無床診療所での実施は想定していません。
- 3) 6種類のサーベイランスの手順書案で構成されています。
- 4) 次のような実施目的にあわせて6種類から自由に選択できます。
  - 職員の手指衛生（手洗い）遵守状況を数値で評価し手指衛生推進に役立てるため
  - MRSA や MDRP の多発を早期に察知して対策を講じるとともに終息を確認するため
  - 院内の黄色ブドウ球菌の薬剤耐性化の様子を知り診療に役立てるため
  - インフルエンザやノロウイルス感染の流行期に多発を早期に察知して対策を遅滞なく行うとともに、対策効果と流行終息を確認するため
  - 尿道留置カテーテル管理の適切性を数値で評価してケアの改善に役立てるため、等
- 5) 種類は次頁の表「サーベイランスの種類と目的」を参考に選択できます。
- 6) 各種類のサーベイランス手順書案は「Ⅰ.手順（フローチャート）」「Ⅱ.報告書例」「Ⅲ.ワークシート例」の3部構成です。
- 7) 手順・報告書例・ワークシート例は施設で使いやすいよう変更できます。たとえば報告書の形式でなくとも、目的によってはホワイトボードに日々の結果を記載するなどの方法も可能です。
- 8) 施設全体でも実施可能ですが、病棟のリスクを査定し対象を限定する（感染発生時の影響が大きい病棟や感染が多発している病棟に絞る）と効率的です。
- 9) 継続的な実践が効果的ですが、目的に合わせて実施期間を設定すると効率的です。  
（例『全体の状況把握のために全病棟で1ヶ月間実施→もっとも対策強化が必要と判断した1つの病棟に限定してその後3~6ヶ月間継続して変化を観察→改善を確認して終了』『インフルエンザやノロウイルス感染のサーベイランスは流行期にのみ実施』）
- 10) 本手順書案は完成版ではなく、ご試用いただいてのご意見やご指導をもとに、より有用で簡便な手順書案へ改訂予定です。

表 サーベイランスの種類と目的

種類	目的	指標 (単位) 分子・分母	期間	施設内報告頻度 *自的に応じて設定	感染判定	判定基準など
1. 手指衛生サーベイランス	手指衛生遵守状況評価	1 患者 1 日あたりの手指衛生回数 (回/患者日) 分子 様式アルコール製剤使用量 (各部署の使用量 または薬剤科からの払出量) 分母 のべ入院患者日数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	なし	
2. MRSA サーベイランス	A. MRSA 検出 サーベイランス	MRSA 検出率 (件/1000 患者日) (施設内発生・持込別) 分子 MRSA 検出件数 (同じ患者に複数検出時は月に 1 件) 分母 のべ入院患者日数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	なし	MRSA の判定基準は CLSI および厚生労働 省 JANIS の判定基準 に準拠
	B. 黄色ブドウ球菌感 染性 サーベイランス	黄色ブドウ球菌の各薬剤感受性率 (%) 分子 各薬剤の感性 (S)・中間 (I)・ 耐性 (R) の黄色ブドウ球菌検体数 (同じ患者に複数検出時は月に 1 株) 分母 黄色ブドウ球菌検体数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	なし	薬剤感受性の判定基準 は CLSI および厚生労働 省 JANIS の判定基 準に準拠
3. MDRP サーベイランス	アウトブレイク (多発) 察知	MDRP 検出件数 (件) (施設内発生・持込別)	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎 (多発時は毎週)	なし	MDRP の判定基準は CLSI および厚生労働 省 JANIS の判定基準 に準拠
4. ノロウイルス感染&消化器症候群 サーベイランス	アウトブレイク察知 ノロウイルス対策評価	ノロウイルス感染 & 消化器症候群発生件数 (件) (施設内発生・持込別、患者・職員別)	流行期 (通常は 10~3 月)	毎週 (多発時は毎日等 に頻度を増加)	あり	ノロウイルス感染の判 定基準は厚生労働省感 染症発生動向調査の感 染性胃腸炎の届出基準 に準拠
5. インフルエンザ&インフルエンザ様症状 サーベイランス	アウトブレイク察知 インフルエンザ対策評価	インフルエンザ & インフルエンザ様症状発生件数 (件) (施設内発生・持込別、患者・職員別)	流行期 (通常は 10~5 月)	毎週 (多発時は毎日等 に頻度を増加)	あり	インフルエンザの判定 基準は厚生労働省感 染症発生動向調査届出基 準に準拠
6. カテーテル関連尿路感染サーベイランス	アウトブレイク察知 カテーテル管理評価	カテーテル関連尿路感染率 (件/1000 カテーテル日) 分子 カテーテル関連尿路感染発生 件数 分母 のべカテーテル留置日数	通年、あるいは目的 に応じて1~数ヶ月 等に予め設定	毎月、あるいは 四半期、半期、年毎	あり	カテーテル関連尿路感 染の判定基準は CDC 米国疾病対策センタ ー NHISN の判定基準に 準拠

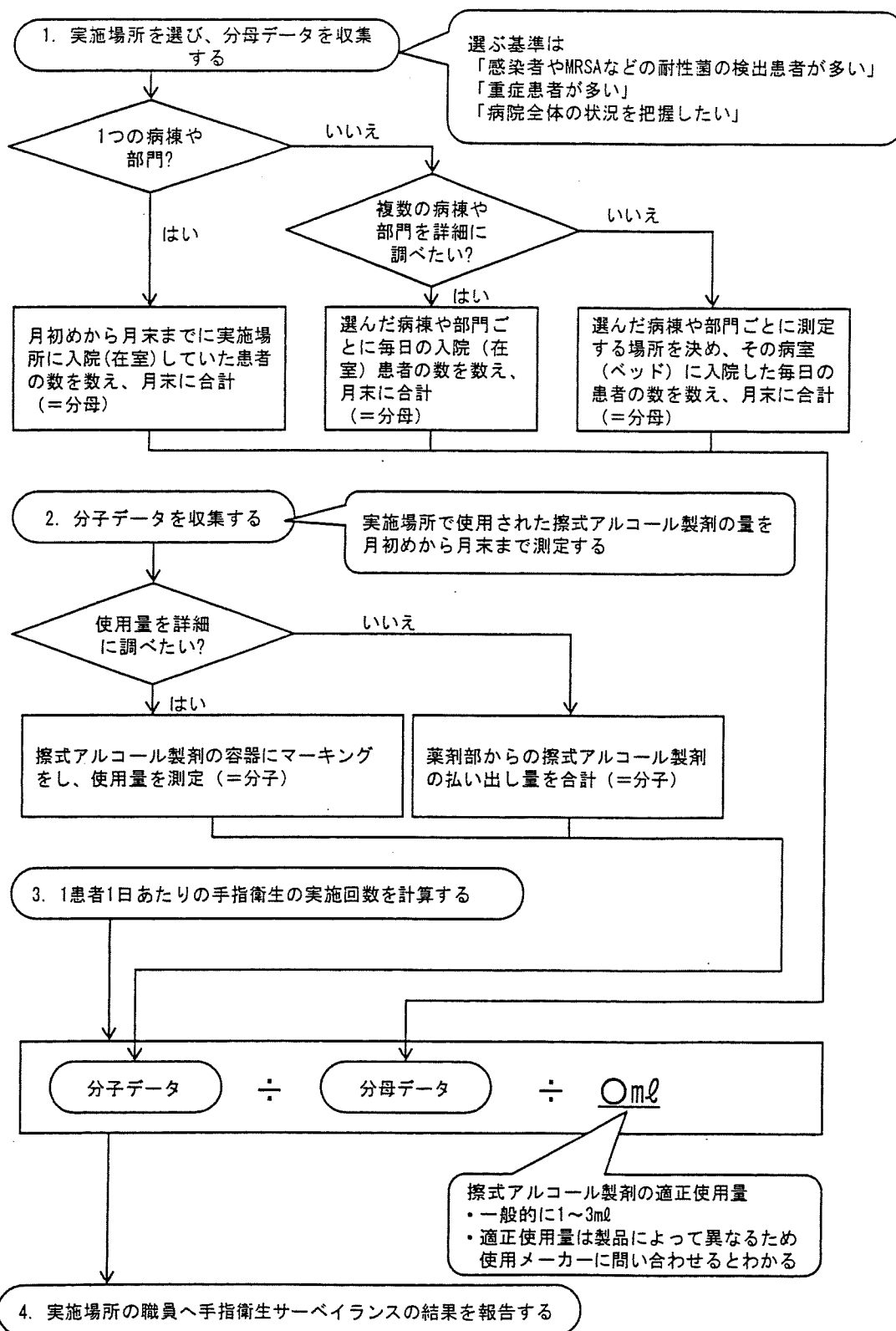
## 目次

### 中小規模の医療施設向けサーベイランス手順書案

手指衛生サーベイランス	…1
MRSA サーベイランス	…6
MDRP サーベイランス	…13
ノロウイルス感染&消化器症候群サーベイランス	…17
インフルエンザ&インフルエンザ様症状サーベイランス	…21
カテーテル関連尿路感染サーベイランス	…25

## 手指衛生サーベイランス

### I. 手順



## II. 報告書例

〇〇病棟 看護師長  
〇〇様

2009 年 9 月 5 日  
感染管理担当 〇〇〇〇

### 手指衛生サーベイランス報告

貴病棟の 8 月の手指衛生サーベイランス結果をご報告します。

今年 1 月に実施した手指衛生に関する勉強会の後からは、擦式アルコール製剤による手指消毒の実施回数が増えておりましたが、7 月以降、減少の兆しがあります。再度、手指衛生の励行をお願い致します。

ご不明な点がございましたら、〇〇（内線〇〇）までご連絡ください。

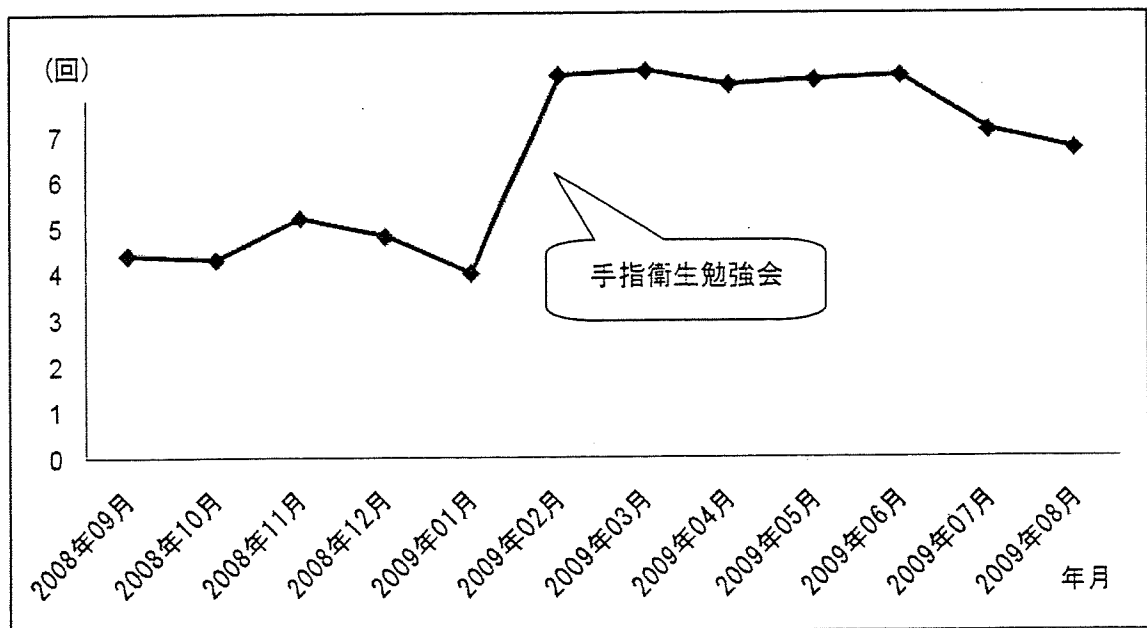


図 2008 年 9 月～2009 年 8 月の〇〇病棟における手指衛生実施回数の推移

(注) 手指衛生実施回数 (回/患者日)

=1 患者 1 日あたりの擦式アルコール製剤による手指消毒の実施回数

=擦式アルコール製剤使用量÷のべ入院患者日数÷3ml (1 回の手指消毒に必要な量)

\* 擦式アルコール製剤使用量は、薬剤科から 1 か月に払い出された量



II. 報告書例 (MRSA 検出率と合わせた報告書例)

〇〇病棟 看護師長  
〇〇様

2009 年 9 月 5 日  
感染管理担当 〇〇〇〇

手指衛生・MRSA 検出サーベイランス報告

貴病棟の 8 月の手指衛生・MRSA 検出サーベイランス結果をご報告いたします。

今年 1 月に実施した手指衛生に関する勉強会の後から擦式アルコール製剤による手指消毒の実施回数が増えており、MRSA 検出率も低下しました。手指衛生実施の効果が表れているものと考えますが、7 月以降下降の兆しがあります。再度、手指衛生の励行をお願い致します。

ご不明な点がありましたら、〇〇 (内線〇〇) までご連絡ください。

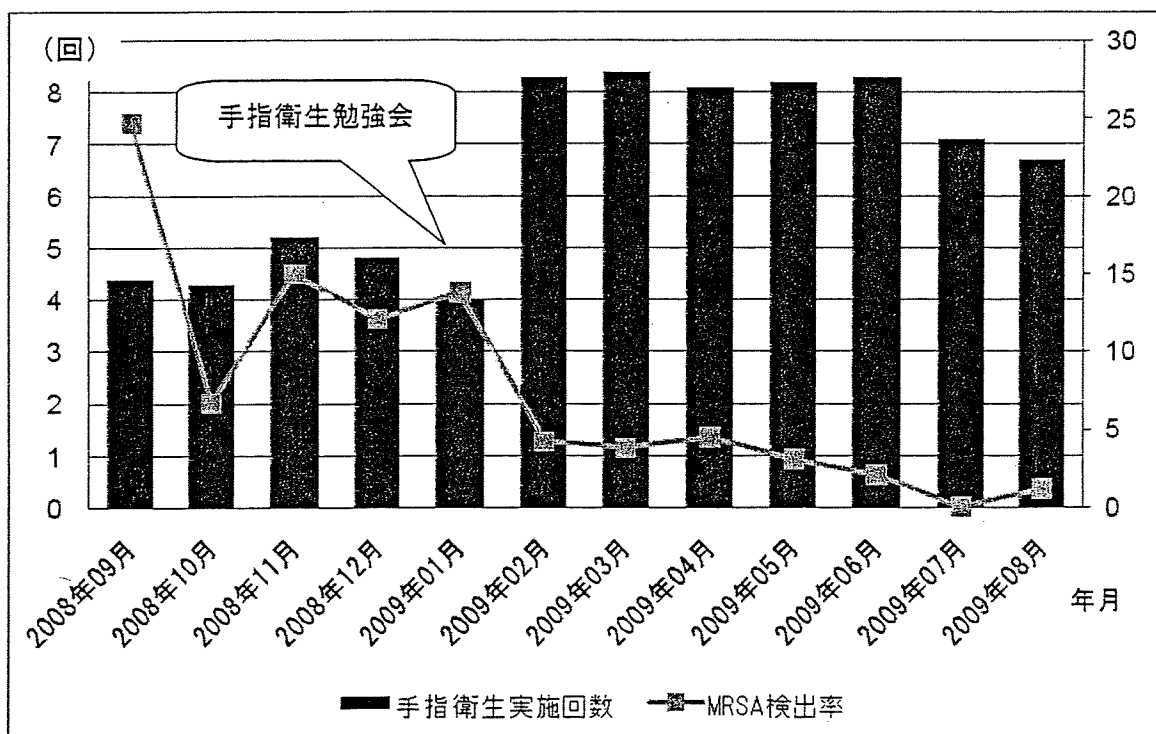


図 2008 年 9 月～2009 年 8 月の〇〇病棟における手指衛生実施回数と MRSA 検出率の推移

手指衛生実施回数 (回/患者日)

$$= 1 \text{ か月あたりの擦式アルコール製剤使用量 (ml)} \div \text{のべ入院患者日数}$$

MRSA 検出率 (件/1000 患者日) = 1000 患者日あたりの MRSA 検出件数

$$= \text{MRSA 検出件数} \div \text{のべ入院患者日数} \times 1000$$

Ⅲ. ワークシート例

1. 分母データワークシート例 その1

\* 毎日〇時に入院している患者の数を記入し月末に合計する。

〇年〇月	実施場所				備考
	〇〇病棟	△△病棟	◇◇病棟	▽▽病棟	
1日					
2日					
3日					
4日					
5日					
6日					
7日					
8日					
9日					
10日					
11日					
12日					
13日					
14日					
15日					
16日					
17日					
18日					
19日					
20日					
21日					
22日					
23日					
24日					
25日					
26日					
27日					
28日					
29日					
30日					
31日					
合計(分母)					

2. 分母データワークシート例 その2

\* 毎日〇時に決められた病室に入院している患者の数を記入し月末に合計する。

〇年〇月	実施場所									備考
	〇〇病棟			△△病棟			◇◇病棟			
	号室	号室	号室	号室	号室	号室	号室	号室	号室	
1日										
2日										
3日										
4日										
5日										
6日										
7日										
8日										
9日										
10日										
11日										
12日										
13日										
14日										
15日										
16日										
17日										
18日										
19日										
20日										
21日										
22日										
23日										
24日										
25日										
26日										
27日										
28日										
29日										
30日										
31日										
小計										
合計(分母)										

3. 分子データワークシート例 その1

\* チェック時の残量ラインにマーキングをする。

前回チェック日の残量から今回チェック時の残量を引く。

使用済みの空容器は、使用量を確認後、廃棄する。

○年○月	前回残量	チェック日残量	使用量 (前回残-チェック日残)	備考
使用中				

使用済み		0		
		0		
		0		
		0		
合計(分子)				

4. 分子データワークシート例 その2

\* 毎月の薬剤部からの払い出し量を記入する。

○年○月	設置型 500 ml	小計 (ml)	携帯型 60 ml	小計 (ml)	合計(分子)	備考
○○病棟						
△△病棟						

◇◇病棟						
▽▽病棟						

MRSA サーベイランス

A. MRSA 検出サーベイランス

I. 手順

